

第12回新生匠瑳戦略会議 会議録（概要版）

開催日時：平成23年12月22日（木）

午後7時10分～9時10分

開催場所：八日市場ドーム選手控室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃、渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、鈴木和彦、橋場永尚

（一般公募者）岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（12人／名簿順）

欠席委員：（団体推薦者）安藤建子、越川八代枝

（一般公募者）大塚榮一

（3人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

【 議 事 】

（1）提案書（中間報告）について

- ・ 中間報告は、跡地利用等の懸案事項の解決策を提示するものではなく、懸案事項の位置づけと施策を具体化する際の方向性を提示するものである。具体的な施策の展開は行政がやるべきことで、その施策を具体化するための方法論を提示することが、中間報告の目的である。
- ・ 難しい言葉はなるべく使わず、市民向けにわかりやすい内容でなければならない。
- ・ 今までの勉強会（委員からの活動報告）や里山・檀林ふぉーらむ、商店街復権会議の内容を盛り込んでみてはどうか。
- ・ 全体の構成として、懸案事項に関する記述と市民参加等に関する記述を別々にするのではなく、懸案事項を取り上げる中で市民参加の方法を探るなど、それぞれを関連させて記述した方が良いのではないか。
- ・ 戦略会議の位置づけを考えると、具体的な解決策を提示すること自体は不可能ではないが、提示することで行政による政策決定の範囲を縛ることにならないか。
- ・ 具体的な解決策を入れるとすれば、例えば、地域の課題をいくつか取り上げて、市民にもわかりやすく「見える化」（解決を図るために、問題・課題を認識すること）し、それを題材にして意見や考え方を盛り込んでいけばいいのではないか。
- ・ 当初から戦略会議の位置づけについては、基本的な考え方を提示する場として認識

していたので、まずは考え方や方向性が提案書の中心になると思うが、その中である程度具体論に入っていく必要もあると思う。

- 一つの方法として、今まで作成してきた会議録を要約し、課題に対する各委員の意見等を踏まえて、匝瑳市の向かうべき方向性を提示するのはどうか。
- 戦略というレベルで考えると、匝瑳市内で起こっている多様な変化をとらえて、そこから突破口を見つけ出すことで匝瑳市全体の戦略を考えることになるが、現在検討している懸案事項はそれぞれが具体的な事業なので、戦略会議の位置づけと検討している内容に違和感を感じる。
- 当初示された4つの懸案事項以外に、各委員からの報告により、農業・福祉・自然など匝瑳市独自の具体的なケースを、市民目線で研究することができた。それがあつたからこそ、匝瑳市全体の方向性について議論ができたのではないか。
- 解決策というものをどうとらえるかという問題で、戦略という考え方でいくと、J T跡地や旧小学校施設を利活用しないことも選択肢の一つになり得る。
- 懸案事項の議論だけではなく、各委員からの報告やフォーラム等を行ってきたのは解決策を探すためだけではなく、問題の所在がどこにあるのかということの研究してきた側面がある。
- 戦略会議として「こうしたい」という意見を述べるのはいいが、「こうしてください」という提案は難しい。例えば、今後、跡地利用等について非常に良い提案があつたときに、中間報告が結果として足かせになる可能性があると思う。
- 問題の所在、市の課題を「見える化」し、基本的な考え方の中に具体的な解決策についてもある程度ふれられるよう、市側の要望もできるだけ取り入れるようなかたちで中間報告を作っていくたい。その際、今後の施策展開の足かせにならないように注意し、全体像を再構築した上で内容を検討する。
- とりまとめの手法として2つの意見が出された。一つには、鎌田委員と木村委員に手を入れてもらいながら委員長がまとめる方法で、もう一つには、第11回までの会議録をベースに要素を短文で抽出し、委員全員で今まで議論してきた内容の整理を行う方法である。手法については、次回の会議までに委員長と事務局で調整の上、決定する。

(2) その他

次回以降の会議日程は、第13回(次回)会議が1月18日(水)、第14回会議が2月29日(水)、第15回会議が3月22日(木)とし、それぞれ午後7時から八日市場ドームで行う。